

京都やましろ旅のたより 1月号

1月号テーマ

「新しい年に期待を寄せて」

1面 振興局「やましろ産業観光」

2面 京田辺市「二月堂松明竹送り」

3面 大山崎町「宝積寺がいっぱい」

4面 旬のイベント情報

編集・発行：京都府山城広域振興局 商工観光室

〒611-0021 京都府宇治市宇治若森7-6 TEL 0774-21-2103

E-mail : yamashin-no-shoko@mail.pref.kyoto.jp

※インターネットでも御覧いただけます

<http://www.pref.kyoto.jp/yamashiro/works/nourin/ocha-kan/kanko/tayori.html>

新しい年が始まりましたね。今年はどんな年になるのでしょうか。皆様にとって幸多い年となりますように。さて、1月号では、「新しい年に期待を寄せて」をテーマに京田辺市さんと大山崎町さんにお薦めイベントを紹介していただきます。まずは、振興局お薦めの産業観光スポットの紹介から始めましょう。

やましろ 産業観光 城陽酒造

城陽酒造さんに訪れたのは、冬の到来が身にしみるとても寒い日でした。西仲さんの案内で、酒蔵へ。お酒造りは、菌に敏感なので、まず手と足下を消毒して中に入ります。

蔵の高い天井は、酵母菌がついて黒くなっていました。お酒は、精米→洗米・浸漬→蒸米→麴づくり→酒母→もろみ仕込み→酒しぼりという工程でつく

られます。蒸米された米が冷やされているタンクや、麴が作られている麴室（むろ）を見せていただき、もろみ仕込みのタンクへ。ここからは、杜氏の古川さんが説明してくださいました。

タンクの中ではアルコール発酵が行われており、酵母が出す泡が動いていく様は一日見ても飽きないと古川さんはおっしゃいます。消えてはまた生まれる泡を見ながら、大吟醸と吟醸酒の違い等を教えていただき、最後の酒しぼりの工程へ。

古川さんのお話「酒しぼりの後貯蔵すると、違うタンクのお酒を混ぜて統一した品が作れますが、うちは、しぼったお酒をすぐに瓶詰めして製品化しているのですごく怖い。失敗が許されないんですよ。」

蔵見学の終了後、直販コーナーで生酒の試飲をさせていただきます。購入もできます。

島本智枝社長のお話「本来の昔ながらのお酒の造り方を大切にしたいと思っています。また、若い方にも少しでいいから、いいお酒、本物のお酒を楽しく味わっていただけたらと思っています。」

今年は寒さが厳しく、お酒造りにはいい年だそうです。昔ながらのお酒の造り方をぜひご覧になってください。



蔵見学

2月中頃まで日・祭日を除く午後1時から3時の間。予約制。電話で申し込みを

城陽酒造株式会社

京都府城陽市奈島久保野34-1

電話0774-52-0003

京田辺市

奈良東大寺二月堂において3月1日から2週間にわたって修^{しゅにえ}二会「お水取り」は、本尊の十一面観音に、僧侶たちが世の中の罪を一身に背負い、代苦者、すなわち一般の人々に代わって苦行を引き受ける者となり、苦行を実践し、国家安泰等を祈る祈願法要です。

このお水取りの別名をお松明^{たいまつ}とも言い、

「二月堂竹送り」はその松明に使用する籠松明の真竹を寄進する行事で、かつては山城地方をはじめ各地から、奈良に通じる街道筋をリレー式で東大寺二月堂まで運ばれており、戦前までは京田辺市からも、たくさんの寄進竹が送りだされていました。

二月堂

松明竹送り



いつ頃か消え去ったこの風習を昭和 53 年に地域の方が中心となり、約 40 年ぶりに復活させ、今回で 29 回目を迎えます。

京田辺市普賢寺地区の竹林で切り出し

た竹^{おおみどうかんのんじ}大御堂観音寺に運び、道中の安全を祈願してもらいます。その後、竹に山城松明講の文字を入れ東大寺二月堂に向け出発します。

開催日 : 平成 18 年 2 月 11 日 (祝・土) 午前 8 時～

開催場所 : 大御堂観音寺 (京田辺市普賢寺下大門 13)

アクセス : 近鉄京都線「三山木」駅より奈良交通バス停「普賢寺」下車、徒歩 3 分。

お車でお越しの場合は「普賢寺ふれあいの駅」の駐車場をご利用下さい。

参加申込 : 当日直接観音寺へお越し下さい。

問合せ先 : 京田辺市観光案内所 (電話0774-68-2810)

お薦め! 寄進竹を实际担いで歩けます! 到着地点東大寺では、普段見学できない場所を見学できます!

大山崎町

宝積寺 がいっぱい

ほしくせつぶんえ

星供節分会

2月3日の節分行事で、古くから伝わるもので、五匹の鬼と、七福神が繰り出す伝統行事です。まず、本堂で読経のあと、たいまつを渡された鬼が、福男らによって追い払われます。その後、七福神らによって宝船をかたどった仮設舞台から福豆がまかれます。



ほしくせくじ
宝積寺で、ひときわ目立つのが、桃山時代の作といわれる三重の塔です。地元では、秀吉が一夜で築いたといわれ「一夜の塔」と呼ばれている。現在、葺かれている瓦は、秀吉時代の大阪城軒丸、軒平瓦と同

範瓦ということがわかっています。秀吉、あるいは後継者の秀頼時代に豊臣氏と親しい職人が宝積寺の改修に関わったことを示しています。

豊臣権力が宝積寺を保護していたものと思われます。

(学芸員)

天王山の麓にあり、俗に宝寺と呼ばれている、宝積寺では本尊十一面観音菩薩像、三重の塔、閻魔大王坐像が重文指定されています。今日残る祭礼の中では、2月3日の節分会と4月18日の鬼くすべがユニークな行事でにぎわっています。

是非おこしください。お待ちしております。

(住職)

鬼くすべ だいやくじょついなしき 大厄除追儺式

4月18日 住職が導師となり、僧9人を迎えて執行され、総数約30名となる。

その年の干支の生まれの信者が年男、厄年の信者が鬼の役につくならわしです。鬼役は赤・青・黄の狩衣を着し、それぞれの鬼面をつけて手に松明を採ります。全体で約一時間の行事ですが、まさに鬼をいぶし鬼を追い出す、その名のとおり「鬼くすべ」の印象が強烈です。儀式の後には餅まきもあり、多くの参拝客でにぎわいます。

【問い合わせ】

- [宝積寺 \(乙訓郡大山崎町銭原1番地\)](http://www.takaradera.jp)
- 電話 075-956-0047
- <http://www.takaradera.jp>

【アクセス】

- JR京都駅から15分、山崎駅下車、徒歩17分。阪急大山崎駅から徒歩20分
- 名神大山崎ICから南へ約2km。



旬のイベント情報

- 1月1日～ 吉祥天女立像開扉（加茂町・浄瑠璃寺0774-76-2390）
15日
- 1月5日 初あがたまつり（宇治市・県神社0774-21-3014）
- 1月8日 三重塔（国宝）開扉（加茂町・浄瑠璃寺0774-76-2390）
- 1月10日～ 城陽の梅やしき盆梅展（城陽市・倉田雅彦氏邸内）
3月10日 （城陽市観光協会0774-56-4029）
- 1月13日 初猿丸（宇治田原町・猿丸神社0774-88-3782）
- 1月14日 縁たたき（宇治田原町・阿弥陀寺）（宇治田原町教育委員会0774-88-5850）
- 1月15日 とんど祭り（大山崎町・小倉神社075-956-2044）
- 1月15日 左義長（とんど祭）（大山崎町・離宮八幡宮075-956-0218）
- 1月15日 東一口のとんど（久御山町・東一口）（久御山町産業課075-631-9964）
- 1月15日 雙栗神社の粥占神事（久御山町・雙栗神社0774-43-2622）
- 1月15日 御田（木津町・相楽神社）（木津町経済課0774-72-0501）
- 1月18日 青山祭（八幡市・石清水八幡宮075-981-3001）
- 1月19日～ 居籠祭（精華町・祝園神社0774-94-3770）（精華町農林商工課0774-95-1903）
21日
- 1月29日 鬼やらい神事（八幡市・石清水八幡宮075-981-3001）
- 1月29日 一休善哉の日（京田辺市・一休寺0774-62-0193）

